

日本文化を英語で説明する辞典 本名 信行／ペイツ ホッフア 編 有斐閣

ごく最近ですが、何年かぶりに本屋さんへ行って、お客の数が非常に少ないのに驚いたことがあります。若者の車離れに始まり、「～離れ」という項目が10以上続く「若者の～離れシリーズ」ものがありますが、読書に関してもすっかり離れてしまったようです。

さて、年齢を経ますと、多くのヒトは目の機能が衰えて夜などに本を読むことが困難になります。また私などは脳の機能も性能が落ち、何が書かれているか分からなくなります。そして、最も読書すべき働き盛りの年齢の方々も、ほとんどの方は仕事がきつくて本など読む気が残っていないでしょう。新聞の発行部数も少し前の7割以下になっています。

このような状況が残念か？と問われると、残念だと答えるしかありません。しかし紙媒体の本での読書を行うことが、ネットや電子データによる文章を読むことに置き換わりつつある現代では、その残念さは少し薄められつつあります。モニタ画面において字のフォントを大きくすることで、老人でも楽々文章を読むことができますし、政治・経済・国際情勢など素人がネットで書いた文の素晴らしさと視点の正しさに触れると、なぜ新聞が売れなくなったか分かる気がします。

最近の出版物は多くがネット上の電子データとしても売れることを意識して作られています。紙媒体に記述されたデータしか残っていない本は異なります。たとえば「日本文化を英語で説明する辞典」などは、その重要性にも関わらず紙媒体だけの存在です。最近では英語教育の賜物で、英語を使える日本人も増えてきました。しかし困るのは日本の文化に関するものがなかなか英語で説明できないことです。「あやとり」「七宝（しっぽう）」「根性」、スルメをアタリメ、4をシではなくヨンに置き換える日本固有の「忌みことば」などを苦労しないで英語で説明できる方はそれほど多くないと思います。本校にも留学生が多く在籍していますし、今後はより多くなるでしょう。分からない日本語の単語は多いものです。日本文化を学ぶ時には、この辞典はきっと役に立つことでしょう。理系の形に添った英語ではないため工学出身者には少し難しい英語の文章に思えますが、それでも役に立ちます。この本を見かけたら、ぜひ手にとって感じて下さい。時代遅れな本が、未来を作る機能を持つという事実を。